

峰のひかり

発行人
 社会福祉法人 七峰会
 理事長 奥田 稔
 〒036-8356
 青森県弘前市大字下白銀町 21-8
 電話 (0172)33-8861
 FAX (0172)33-8862



身体障害者療護施設 山郷館くろいし
 「ちよつとそこまで」
 の外出

山郷館くろいしでは、利用者のみなさんに日々の生活を充実したものにしていたくために多くの日中活動を盛り込んでいます。中でも今年度は新たに盛り込まれた『外出支援』により力をいれています。

今までは、外出といえばミニ旅行やお花見というように外出自体が一大イベントでした。しかし、この『外出支援』のテーマは、利用者のみなさんに、外出を特別なものと考えず、日々の生活の中に取り入れることよつと身近なものにしていたくという事です。そのため、外出先や移動範囲は黒石近郊をメインとし、あえて遠出はしていません。

外出先が近所で、手間も時

間もかからないということから、今まで外出をためらっていた方々も積極的に出かけるようになりました。

これまで行事の一環として参加していた外出を、ちよつとした買い物や近所への散歩というように日常の一コマとして気軽に利用していただいています。

また、外出を暮らしの中に取り入れて、どんどん外に出ていくことよつと、利用者のみなさんに地域移行へのイメージをふくらませていただくことも狙いのひとつです。

そして、この『外出支援』を、地域移行や地域生活に向けたワンステップとして活用していただきたいと思っています。

利用者のみなさんが一人でも多く、将来地域に出て自分らしい生活をおくれるように、また施設にいても地域の中で生活していることを実感できるように、これからも『ちよつとそこまで』のお手伝いをしていきたいと思えます。

「前庭舗装修理終わる」

山郷館が開設されたのが昭和54年4月1日。今年で、満30年の節目を迎えます。雨の日も風の日も凍てつく冬の日も山郷館の歴史とともに歩んできた前庭の舗装も長年の歳月とともに傷みが目立ってきました。特に近年は、冬季の除雪のためのパワースショベルの使用頻度が増え、多



く行き来するようになったため、限界がきたようです。

今年6月、修繕のため全面舗装を行いました。利用者皆さんにとつては、見慣れた景色が変わったようで、ちよっぴり寂しい気持ちの方もいるようです。

しかし、この度の全面舗装に伴い、新たに、車いす専用車両スペースも確保されて、施設やデイサービス利用の皆さんの乗降や移動も安全かつスムーズに行われるよう

になりました。また、これまで前庭の散歩を日課としていた利用者たちからは、きれいに舗装された路面は、「車いすの自走が楽になり、疲れなくなつた。」「つまずく心配がなくて安心。」という声が多く聞かれ、喜ばれています。さらに、屋外昼食会、夏祭り等の屋外行事の際も、テントや調理器具等の設置が以前に比べ、利便性も良くスムーズに行えるようになり、前庭スペースを有効的に活用することができるようになりました。施設も措置制度か

ら契約の時代へと変わる中で、山郷館は、「地域支援」という視点で福祉サービスを展開していますが、利用者本位の立場を忘れる事なく、変わらなければならないもの、変わってはならないものを見つけ見極めて、今後もがんばっていきたいと思います。

身体障害者授産施設 旭光園

趣味が充実しています 「フライパン王」

旭光園を利用している方の趣味は様々です。以前には、パソコン・レース編み・陶芸・将棋などを楽しんでいる方を紙面で紹介してきました。今回は、Oさんの趣味を紹介したいと思います。

Oさんの趣味は料理です。「料理をするようになったきっかけは？」の問いに、

「若い頃から、自分で食べたいものは自分で料理して食べていたが、障害を持つてからは、作って食べたと思いませんでした。5、6年前に園内の数か所に電磁調理器が設置された際、たまたま立ち寄ったスーパーマーケットで、電磁調理器対応のフライパンを見つけ、つい購入したことが始まりです。」と、にこにこ話してくれました。

「得意料理は？」の問いには、「初めは、片手で炒めるだけの簡単な料理から始めました。思った以上に上手にできたので、いろいろな料理に挑戦しています。今では、豚肉の生姜焼き・おでん（大根の皮むきから）・すき焼き・湯豆腐なども作っています。」と、話してくれました。

最近では、材料を仲間と購入し、自慢の腕を披露、出来上がった鍋を囲みながら楽しいひと時を、会話に花を咲かせて過ごしているとか…。料理を通じて、外出する機会も増え、仲間とのコミュニケーションも増えていきます。

腕前が上がった分、悩みの種もあるようで、「料理がうま過ぎて少々栄養が過ぎ過ぎた。」と悩んでいる様子です。それでも、食べることは止められず、「今度は、ダイエット料理も作るか。」と、更なる調理への挑戦に目を輝かせて話してくれました。

失礼ながら、Oさんの風ぼうから趣味が料理とは想像しづらいのですが（ゴメンなさい）、趣味を通して楽しい友達の輪が広がっているようです。決して無理をせず、長く楽しめる趣味を持つことは生活の中で良いアクセントになっています。

知的障害者更生施設 **拓光園**

頑張れ 実習生
現場実習を通して

養護学校や特別支援学校の高等部では、進路学習の一環として、社会的自立への意欲や自覚の向上、また、人との関わり方や仕事を最後までやり遂げる力の習得などを目的に、現場実習を行っています。拓光園では、数年間に亘り、この現場実習に協力しています。



今年度もすでに、弘前第一養護学校から2名、森田養護学校から2名、計4名が、1週間から2週間の実習を行いました。拓光園利用者の方と一緒に生活し、清拭たたみや手芸活動、農園作業等、様々な活動を体験しました。その中で、挨拶などの社

会的ルールや作業技術等を学んでいます。



中には、親元を離れて宿泊を行った実習生もいました。全てが初めての体験ということで、実習開始当初は、緊張や戸惑いが見られ、はつきり自分の気持ちを言えなかつたりする場面もありました。しかし、学校の先生方の定期的な訪問による励ましや、先生方と情報交換をしながら支援することで、徐々に変化が見られるようになっていきます。できないと思っていたことが、実はできていたり、多くの驚きや発見がありました。例えば、協調性がないと思われていた人が、皆と協力し一つの仕事を成し遂げたり、2週間の宿泊は長く、難しいと思われていた人が、自分なりの生活を築き、2週間を送る

ことができました。

これから実習生にとっては、進路を決めていかなければならない大切な時期です。沢山の経験を通して、戸惑うことなく、社会に羽ばたけていけるよう、今後も教育活動に協力していきたいと思えます。

知的障害者運動寮 **拓心館**
「はあと開設記念 講演会開催」

拓心館グループ児童デイサービス事業『はあと』では、開設を記念した講演会を開催しました。講師に藤村出（いずる）先生（NPO法人SUN理事長）をお迎えし「自閉症の理解と、子供の頃に考えたいこと」と題し弘前駅前市民ホール（ジョッパル4階）で7月18日（土）10時より行われました。

会場の様子は120席用意した椅子がほぼ満席となり、参加者の方々が藤村先生のお話真剣な表情で耳を傾けていました。

なかでも「自閉症の子供たちが大人になるための準備として、一人て出来る部分を増やし、出来ることを組み合わせて生活の流れを作り、生活していくために私たちが理解し、支援していくことが大切である」と

の話には、多くの参加者の方々が共感している様子が窺えました。

開設記念講演会はおかげさまで大盛況のうちに終わることが出来ました。ご協力を頂いた関係者の方々に、この場をお借りし感謝の言葉を申し上げます。

拓心館グループ児童デイサービス事業『はあと』では、講演会で学んだことを活かし、自閉症や発達障がいのお子さまの療育に力を注いで参ります。



ご利用相談、お問い合わせは左記
 にお願致します。

児童デイサービス事業『はあと』
 〒036-1132-1
 青森県弘前市大字熊嶋字亀田

TEL (0172) 82-5780
 FAX (0172) 82-5781
 183-2

特別養護老人ホーム サンアップルグループ
オムツ外しの取り組み
ユニットケア報告①

平成16年度より、全国福祉施設協議会（以下全老施協）が主催する自立支援介護理論と実践の講義「介護力向上講習会」が始まり、全老施協の案内によってサンアップルホームでも第5期（平成20年度）より参加しています。

介護力向上講習会では、高齢者の方々に安定した尊厳のある日常生活を送っていただくために理論に基づく個別ケアの実践を通して高品質ケアサービスの確立と高齢者の「自立支援」を目指す専門性の習得を目的としています。その一つに「オムツ外し」があり、この講習会をきっかけに、取り組みを始めました。

平成20年5月は日中のオムツ使用率は40・2%でしたが、平成21年2月には6%に、夜間については、平成20年5月は70%以上であったのが、平成21年3月には39%に減っています。これは単にオムツ使用を減らすという事では

なく、自立支援ということからトイレでの自然排泄をして尊厳のある生活を送るという事に繋がります。トイレ排泄が変わるという事は、当然離床時間も増え、日中の活動の増加にも繋がります。今まで寝たきり状態であった方もホー



体力が付き自宅へ歩いて帰る目標を持った対馬トミ様笑顔で到着、20メートル歩きました

／17の社説にも取り上げられました。今年度は、さらに日中のオムツ使用率0%を目標にしています。講師の先生によると、0%にすることは、とても難しく、そう簡単には出来ないと話されており

ましたが、全国の「介護力向上講習会」参加107施設中、サンアップルホームも含めて数箇所の施設が、この0%に向けて、すでに動き始めています。

この取り組みを通して、職員の喜びや、やる気に繋がるのは、利用者の方が、とても生き生きとし、その姿を見てご家族も喜んでいらっしゃる事です。また、利用者の方の変化を楽しみにご家族が面会に来てくれるようになり、ご家族との会話の弾みもなっているようです。

ルでTV視聴するなど日常の刺激を受けながら生活が出来るようになります。（この取り組みについては、陸奥新報6/14の3面、6

総合支援事業	障害者支援事業	高齢者介護事業
<p>青森県指定 津軽障害者就業生活支援センター 弘前市委託事業 ☎4524 弘前市障害者生活支援センター 弘前市委託事業 ☎2400 弘前市北部地域包括支援センター 黒石市委託事業 ☎2100 山郷館総合支援センター 黒石 ☎5018</p>	<p>知的障害者施設 拓心館 ☎4520 グループホームケアホーム(12ヶ所) 生活自立訓練事業 美心学園 就労サポートひろさき 生活介護・就労継続支援B型エイブル 児童デイサービス 知的障害者通所事業 拓光園 ☎2331 通所利用事業 拓光園短期入所支援センター 拓光園障害児デイサービスセンター 日中一時支援事業所 共同生活介護事業所(2ヶ所)</p>	<p>山郷館居宅介護支援センター ☎2941 サンアップル居宅介護支援センター ☎2131 特別養護老人ホーム サンアップルホーム ☎2111 サンアップル短期入所生活介護センター サンアップルホームデイサービスセンター サンアップルヘルパーセンター ☎3758 認知症グループホームアップル ☎2778 認知症デイサービスセンターじい ☎2013 サポートセンターわかば ☎1165 認知症グループホームわかば デイサービスセンターわかば サンアップル在宅介護支援センター ☎2131</p>